



3月24日は「世界結核デー」

知ろう！結核

東京都多摩府中保健所
結核対策イメージキャラクター
「肺えもん」



日本では、現在も年間2万人近く新たに結核と診断される方がおり、結核は過去の病気ではありません。東京都で年間2,300人程度、多摩府中保健所管内でも毎年130人程度の方が診断されており、最近は特に高齢者の割合が高まっています。身近でいつ起こってもおかしくない感染症が結核です。まずは結核について知ることから始めましょう。



結核ってなに？どんな症状がでるの？

結核は結核菌が増殖し、肺に炎症が起こる病気です。症状は、咳、たん、微熱、体のだるさ、体重の減少、食欲不振、寝汗などです。

咳が2週間以上続くときは、必ず医療機関を受診しましょう。

長引く咳には注意だね！



どうやって「感染」するの？「感染」すると人にうつすの？

結核患者さんの咳やくしゃみの飛沫（しぶき）と一緒に周囲に結核菌が飛散します。それを周囲の人が吸い込み、肺に定着することで「感染」します。

「感染」しただけでは人にはうつしません。「感染」しても、一生発病しない人もおり、「発病」するのは「感染」している人の10人に1~2人です。「発病」した人は、病状が進行した場合、周囲にうつす可能性がでてきます。

「結核」といっても「感染」と「発病」は違うよ。「発病」したら治療が必要だよ！



「発病」したらどうするの？

もし発病したら、通常、結核の薬を6か月以上服薬します。その後は、2年程度、経過を観察します。結核治療には公費負担制度があります。

病院や保健所が連携してサポートします。

結核はきちんと薬を飲めば治るよ！



日頃からできることはあるの？

結核の早期発見には、胸部X線検査を受ける必要があります。症状が出ない場合もあるため、特に高齢者は年に1回X線検査を受けましょう。

結核の感染予防には、健康的な生活が大切です。睡眠をとる、運動をする、バランスのとれた食事をする、たばこを吸わないなど健康的な生活を送りましょう。

昔から毎年健診を受けるとよ。高齢者だけでなく若者も注意じゃ！



【この記事に関するお問合せ】保健対策課 感染症対策担当

このマークは、目の不自由な方などのための「音声コード」で、コードの位置を示すために切り込みを入れています。専門の読み上げ装置で読み取ると、記事内容を音声で聞くことができます。

